

平成27年11月13日

徳島県総合計画審議会
会長 近藤光男 殿

県政運営評価戦略会議
会長 石田和之

「いけるよ！徳島・行動計画」の評価結果及び
「県民からの優れた意見・提言」について

県政運営評価戦略会議設置要綱第2条の規定により、本年度実施した「いけるよ！徳島・行動計画」の評価結果及び「県民からの優れた意見・提言」について、別添のとおり提言します。

徳島県総合計画審議会におかれては、新たな総合計画である「新未来『創造』とくしま行動計画」の見直しにつなげていただきたい。

提 言 書



平成27年11月13日

県政運営評価戦略会議

は じ め に

県政運営評価戦略会議では、昨年度に引き続き、「いけるよ！徳島・行動計画」の主要事業を評価の対象とし、今年度においては、4年間の計画期間が終了したことから、この期間の取組内容や成果を総合的に勘案して評価を行う、総括評価として実施しました。

また、とくしま目安箱などに寄せられた「県民からの意見・提言」についても県政運営評価戦略会議で審議し、県の施策に反映すべき優れた意見・提言として11件を選定いたしました。

これらの評価結果等について、提言書として取りまとめましたので、徳島県総合計画審議会において、速やかに御協議いただき、新たな総合計画である「新未来『創造』とくしま行動計画」の見直しにつなげていただきたいと思います。

平成27年11月13日

県政運営評価戦略会議
会 長 石田 和之

目 次

1	県政運営評価戦略会議について	1 頁
	(1) 役割	1 頁
	(2) 委員	1 頁
2	評価方法について	2 頁
	(1) 評価対象	2 頁
	(2) 評価の視点	2 頁
	(3) 評価基準	2 頁
	(4) 評価手順	2 頁
3	評価結果について	3 頁
4	意見及び提言について	4 頁
	(1) 総括意見	4 頁
	(2) 基本目標ごとの意見・提言	7 頁
	(3) 新たな行動計画の見直しに向けて.....	9 頁
5	「県民からの優れた意見・提言」の採択について	10 頁
6	委員名簿	12 頁

(別冊)

いけるよ！徳島・行動計画 主要事業等評価シート

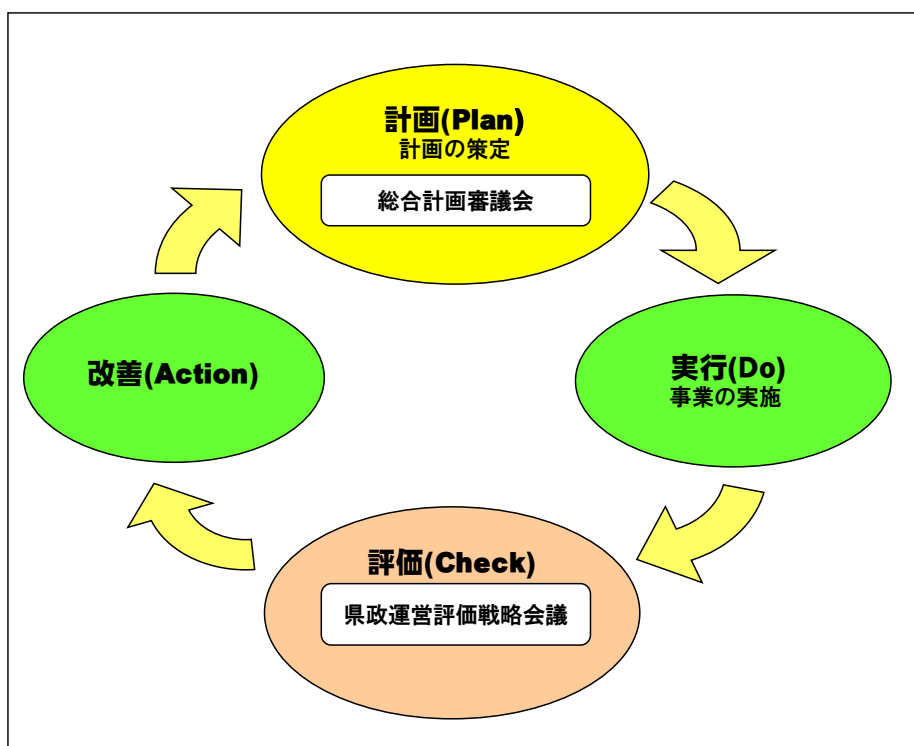
1 県政運営評価戦略会議について

(1) 役割

「いけるよ！徳島・行動計画」（以下「行動計画」という。）の評価については、県民目線からのチェック機能の強化を図るため、行動計画の策定・推進から評価までを担っていた「徳島県総合計画審議会」（以下「審議会」という。）の評価部門を切り分け、平成23年10月から、新たに設置した第三者機関である「県政運営評価戦略会議」（以下「戦略会議」という。）において実施している。

この戦略会議で議論された評価結果は、審議会に提言され、新たな総合計画である「新未来『創造』とくしま行動計画」の見直し、さらには徳島発の政策提言にもつなげていくこととしている。

また、戦略会議においては、「とくしま目安箱」などに寄せられた県民からの意見・提言について、優れたものを選定し、審議会に提言することにより、県民意見の県政への積極的な反映を図る役割も担っている。



(2) 委員

戦略会議の委員は、大学教授などの学識経験者や企業・団体関係者、地域のリーダーなど、14名で構成している（委員名簿は12頁参照）。

2 評価方法について

(1) 評価対象

行動計画に位置付けられた全ての主要事業（750事業）を対象とした。

(2) 評価の視点

行動計画の平成23年度から平成26年度までの4年間の計画期間が終了したことから、この期間の取組内容や成果を総合的に勘案して評価を行う、総括評価として実施した。

(3) 評価基準

A：成果が上がっている・・・数値目標等が達成されるとともに、これまでの取組により成果が十分に上がっているもの

B：相当程度成果がある・・・数値目標等がほぼ達成されているとともに、これまでの取組により相当程度の成果があるもの

C：成果不足・・・数値目標等が達成されておらず、成果が不十分であるもの

(4) 評価手順

あらかじめ担当部局が作成した主要事業（事業概要）ごとの「評価シート」に基づき、戦略会議の委員の代表者が作成した「評価案」について会議の場で議論し、「評価結果」として取りまとめを行った。

戦略会議の開催状況

	日 程	評価対象となる基本目標	班別
第1回	7月31日(金)	基本目標2「経済・新成長とくしま」	全体
第2回	8月5日(水)	基本目標6「まなびの邦・育みとくしま」	1班
第3回	8月5日(水)	基本目標7「宝の島・創造とくしま」	1班
第4回	8月17日(月)	基本目標3「安全安心・実感とくしま」	1班
第5回	8月20日(木)	基本目標1「にぎわい・感動とくしま」	2班
第6回	8月26日(水)	基本目標4「環境首都・先進とくしま」	2班
第7回	8月26日(水)	基本目標5「みんなが主役・元気とくしま」	2班

注) 会議の進行は、全体が石田会長、1班は阿部副会長、2班は南波委員が実施。

3 評価結果について

戦略会議での評価結果は、
「A（成果が上がっている）」と評価されたものが583事業（77.7%）、
「B（相当程度成果がある）」とされたものが120事業（16.0%）、
「C（成果不足）」とされたものが47事業（6.3%）となった。（表－1）

表－1 主要事業の評価結果

評価		基本目標	1	2	3	4	5	6	7	合計	比率
			にぎわい・感動とくしま	経済・新成長とくしま	安全安心・実感とくしま	環境首都・先進とくしま	みんなが主役・元気とくしま	まなびの邦・育みとくしま	宝の島・創造とくしま		
主要事業	A	成果が上がっている	75	92	131	71	51	73	90	583	77.7%
	B	相当程度成果がある	18	21	20	23	14	8	16	120	16.0%
	C	成果不足	11	16	5	5	7	3	0	47	6.3%
	合計			104	129	156	99	72	84	106	750

【参考】表－2 「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」（平成19年度～平成22年度）の主要事業の評価結果

評価		基本目標	1	2	3	4	5	6	7	合計	比率
			「オープンとくしま」の実現	「経済再生とくしま」の実現	「環境首都とくしま」の実現	「安全・安心とくしま」の実現	「いやしの国とくしま」の実現	「ユニバーサルとくしま」の実現	「にぎわいとくしま」の実現		
主要事業	A	成果が上がっている	44	64	59	82	70	50	58	427	70.2%
	B	相当程度上がっている	14	26	18	29	10	16	37	150	24.7%
	C	成果不足	2	7	7	6	3	3	3	31	5.1%
	合計			60	97	84	117	83	69	98	608

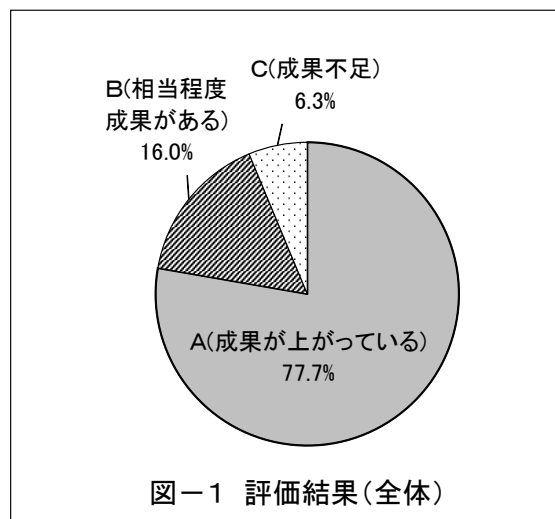
また、主要事業ごとの評価結果は、別冊の「いけるよ！徳島・行動計画 主要事業等評価シート」のとおりである。

4 意見及び提言について

(1) 総括意見

今年度は、評価基準で示したとおり、A評価（成果が上がっている）、B評価（相当程度成果がある）、C評価（成果不足）の3段階で評価を行った。

なお、昨年度までの3年間は、評価対象である行動計画が計画期間中であつたことから、抜本的な見直しのD評価も含めて、4段階の評価として実施した。

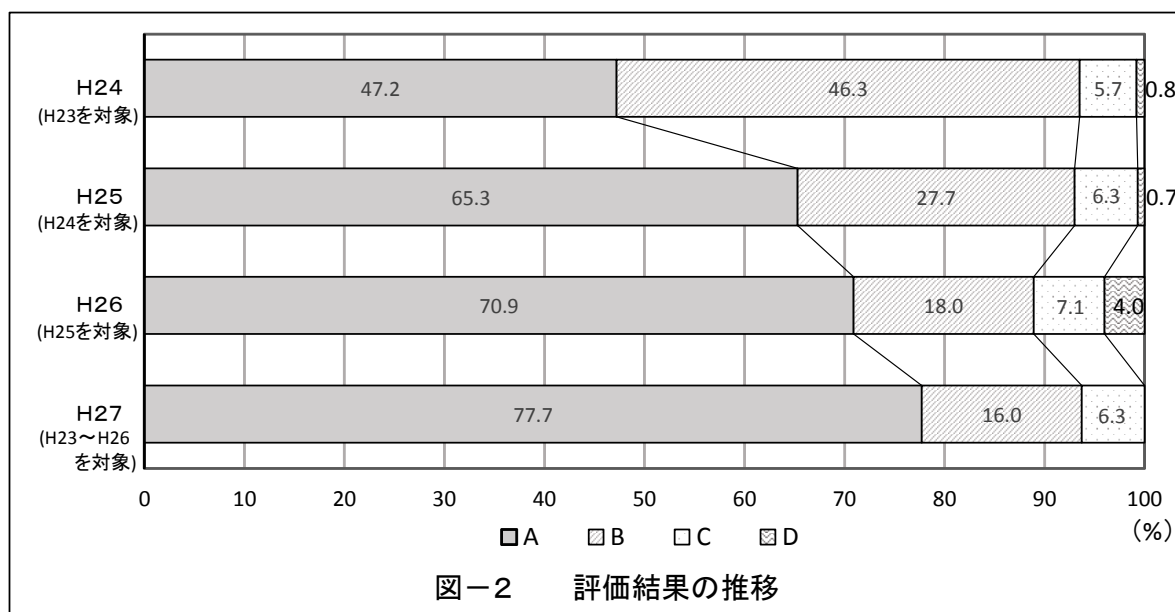


評価結果（全体）（図-1）をみると、750の主要事業のうち、A評価又はB評価が703事業で全体の9割を超えており、一定の成果が認められる。また、4年前に実施した「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」の総括評価（表-2）と比べ、A評価の割合が高まったことも評価できる。

一方、評価結果の推移（図-2）をみると、計画が2年目から3年目と進むにつれて、B評価の割合が減少し、A評価及びC・D評価の割合が増加している。

今年度は、A～C評価の3段階であることから、単純に比較はできないが、昨年度と比べ、B評価及びC評価の割合が減少し、A評価の割合が増加した。

このようにA評価の割合が、4年間を通して漸増していることは、各部局が目標達成に向け努力した成果であると考えられる。



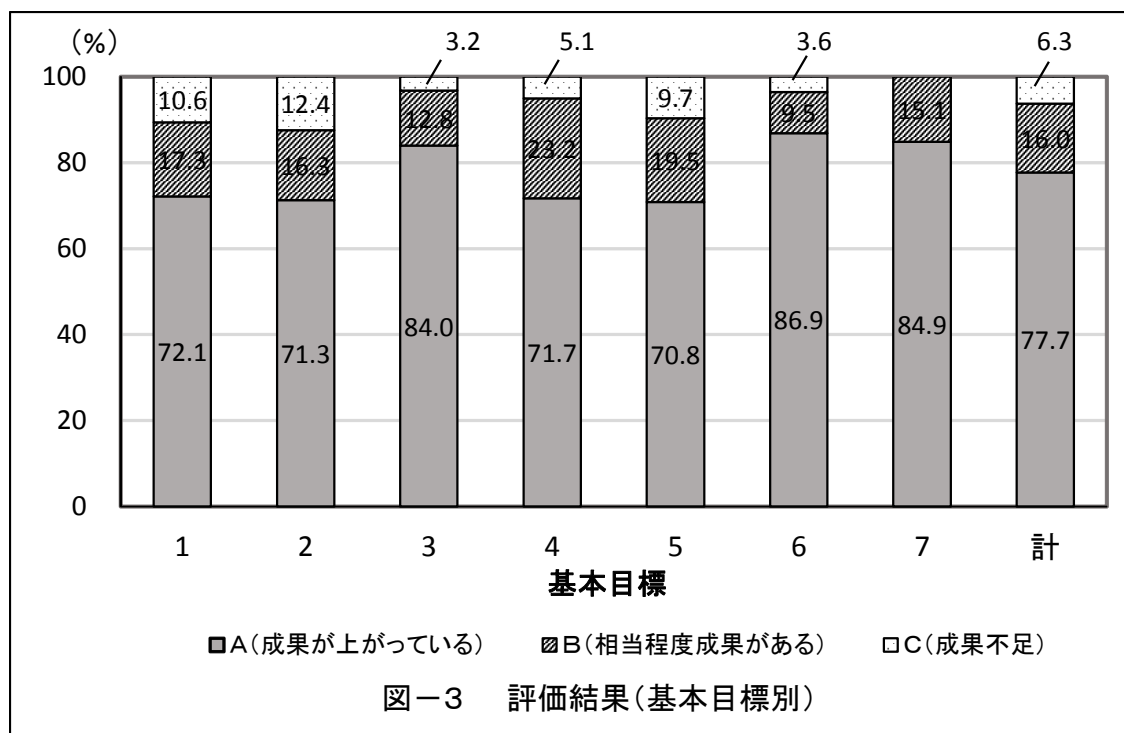
しかしながら、C評価が47事業・6.3%あり、4年前に実施した前計画の総括評価（31事業・5.1%）と比較して、1.2ポイント増加したことは、謙虚に受け止めなければならない。

この47事業には、昨年度、当会議においてC評価又はD評価とし、提言書において、事業推進方法等の見直しに積極的に取り組んで欲しい旨、指摘した33事業が含まれている。今後、引き続き、「新未来『創造』とくしま行動計画」に位置付けられている関連事業については、今回の評価結果を十分に踏まえた上で、内容を精査し、施策の推進に取り組んでいただきたい。

（別冊297ページ～324ページ「C評価の主要事業一覧」参照）

次に、基本目標ごとに評価結果（図-3）をみると、基本目標3「安全安心・実感とくしま」、基本目標6「まなびの邦・育みとくしま」、基本目標7「宝の島・創造とくしま」において、A評価の割合が8割を大きく超えており、多くの施策において、一定の成果が認められたところである。

一方、基本目標1「にぎわい・感動とくしま」、基本目標2「経済・新成長とくしま」、基本目標5「みんなが主役・元気とくしま」においては、C評価の割合がいずれも高く、様々な隘路はあるものの、今後、なお一層の努力を要する分野である。



こうした各基本目標のうち、いくつか特徴的なものを挙げてみると、まず、最もA評価の割合が高かった基本目標6「まなびの^{くに}邦・育みとくしま」（86.9%）は、4年間におけるA評価の割合が順調に増加しており、C評価の割合も低い。

〔 H24:42.9% → H25:65.5% → H26:81.0% → H27:86.9%
別冊325ページ～326ページ「(基本目標別) 評価結果の推移」参照 〕

この分野は、教育や青少年対策が中心となっており、本県教育の指針となる「徳島県教育振興計画」に基づく各種施策の成果が、毎年度、着実に積み重ねられた結果であり、大いに評価できるものである。

また、にぎわいづくりや行財政改革を中心とする基本目標7「宝の島・創造とくしま」についても、同様の傾向がうかがえた。

また、基本目標2「経済・新成長とくしま」については、初年度（H24）におけるA評価の割合が高く、比較的順調なスタートを切ったが、4年間を通してみると、A評価の割合はあまり増加していない。

〔 H24:60.2% → H25:62.5% → H26:67.4% → H27:71.3%
別冊325ページ～326ページ「(基本目標別) 評価結果の推移」参照 〕

この分野は、産業活動の主体が農林水産業者や民間事業者であり、行政の施策が及びにくいものが多いことから、こうした評価結果につながったものとする。

なお、基本目標4「環境首都・先進とくしま」については、当初の3年間、A評価の割合が最も低かったが、この要因としては、昨年度にも意見があったように、環境分野の施策については、高い目標を掲げている施策が多いことによるものと思われた。

しかし、今年度においては、A評価の割合（71.7%）は、平均値（77.7%）には及ばなかったものの、A評価の増加率は18.2ポイントと全体のA評価の平均増加率6.8ポイントを大幅に上回り、最終年度における懸命な取組を大いに評価したい。

〔 H24:31.0% → H25:56.0% → H26:53.5% → H27:71.7%
別冊325ページ～326ページ「(基本目標別) 評価結果の推移」参照 〕

(2) 基本目標ごとの意見・提言

750の「主要事業」の個別評価に加え、7つの「基本目標」ごとに、次のような意見・提言がなされた。

「新未来『創造』とくしま行動計画」における事業の見直しに際し、十分に、検討していただきたい。

<基本目標1「にぎわい・感動とくしま」>

- ・ 徳島のすばらしい観光資源である阿波おどりを、もっと観光に活用すべきである。夏だけでなく、例えば春節祭の時期に実施し、冬の集客に活かしてはどうか。
また、練習風景をSNSで配信したり、阿波おどりの時期だけ民家を宿泊施設にできるような特区にしてはどうか。
- ・ 「中国人の爆買」が話題となっているが、中国人を中心とする外国人観光客の消費については、その経済効果はかなり大きいと思う。
徳島県は、外国人入込客数の伸びに比べて、外国人宿泊者数の伸びが弱い。
外国人誘客については、アジア圏だけでなく、ヨーロッパ圏なども視野に入れてはどうか。

<基本目標2「経済・新成長とくしま」>

- ・ 経済や産業分野の施策については、高い目標を掲げている施策が多く、全体的に厳しい評価となった。
しかし、大阪中央卸売市場における青果物の都道府県別販売金額第1位を目指したり、LED関連企業雇用者数（累計）1,000人以上を目指すなど、積極的かつ意欲的に取り組むという姿勢は高く評価できる。安易に目標を引き下げることなく、引き続き頑張るべき。
- ・ 藍染め製品は、徳島のイメージを全国や世界に発信する上で、非常に重要な伝統工芸品である。
しかし、年配の世代が着るものというイメージがあることから、今後は、国内外の優れたデザイナーと藍染め業者を結びつけるなど、デザイン力を強化し、若い世代にもっとアピールする必要がある。

<基本目標3「安全安心・実感とくしま」>

- ・ 防災分野の施策は、予防的な事前の取組や指標が多い。今後は、大雪で集落が孤立した場合に、どのように対応したかなど、事後的な取組を評価できるような指標が必要ではないか。
- ・ 過疎地の医療については、病院も減少しており、不安に思う地域住民も多いのではないかと。誰もが、いつでもどこでも安心して質の高い医療サービスを受けられるように、地域医療を担う医師の養成に、今後とも努力して欲しい。

<基本目標4「環境首都・先進とくしま」>

- ・ スマートシティやスマートコミュニティのようにエリア全体での省エネの取組が、全国的に見られる。徳島ではこのような取組があまり見られず、「環境首都・先進とくしま」というだけではインパクトが弱い。
日本を代表する企業と共同で、スマートコミュニティをつくる施策ができないか。
- ・ オランダやデンマークのような先進国では、通勤において、自動車ではなく自転車を利用している。
環境対策として、徳島では電気自動車での取組は見られるが、そもそも自動車ではなく自転車を通勤のメインとするような施策が必要ではないか。

<基本目標5「みんなが主役・元気とくしま」>

- ・ 少子化の急激な進行や、共働き家庭の増加などを背景として、女性だけでなく男性の育児参加が、広く社会において求められている。そこで、県内企業における男性の育児休業取得率について、全国順位などを数値目標にしてはどうか。
- ・ 子育てや介護の分野では、従来、家庭が担う部分が多かったが、県や市町村などの公共部門が担う部分が多くなってきている。
しかし、この分野は、一義的には、市町村が主体となる事業が多い。
そのため、事業の推進には、県が、もっと積極的に市町村に働きかけ、これを動かすことが必要である。

<基本目標6「まなびの邦・育みとくしま」>

- ・ 教育分野は、人を相手にする事業であるため、計画を立てるのも難しいと思うが、できる限り具体的な目標を立てて取り組んで欲しい。
グローバル化の進展に伴い、世界で活躍できる人材を育成するためには、早い段階で国際感覚や英語力を育むことが重要である。
- ・ 児童生徒のいじめや不登校が社会問題となっている。教員間の連携など、継続的な取組が必要ではないか。
また、昨今、いじめ問題が重要な課題であるが、行動計画にも主要事業にいじめ対策を位置付けてはどうか。

<基本目標7「宝の島・創造とくしま」>

- ・ 職員3,000人体制や公債費の縮減に向けた取組などは、着実に実行され、高い評価を受けている。
- ・ 職員の不祥事問題については、全庁挙げてコンプライアンスの推進に向けた研修や業務改善に取り組んだ結果、一定の効果がみられた。
組織論として、一定の比率で不祥事が発生するのは不可避との意見はあるが、今後、一層の努力をお願いしたい。

(3) 新たな行動計画の見直しに向けて

数値目標の設定等について、次のような意見が出されたので、「新未来『創造』とくしま行動計画」の見直しにあたって、留意していただきたい。

- 社会情勢等に大きな変化があり、目標自体が現状に合わなくなった場合には、計画期間の途中であっても、柔軟に目標の変更を行うことが必要ではないか。
また、目標を達成し、既に事業が終了しているものについては、計画そのものから削除し、新たな目標を設定し直してもよいのではないか。
- 数値目標が設定されていない主要事業の中には、単に、「促進」、「推進」などとしか記載されていないものがあるが、数値目標の設定なども含めて、その事業の到達点を明確にしておく必要がある。
- 数値目標には「成果指標」と「活動指標」があるが、県民から見て成果（効果）がより分かりやすいように、できるだけ「成果指標」を設定してはどうか。

5 「県民からの優れた意見・提言」の採択について

平成26年7月から平成27年6月までに「とくしま目安箱」に寄せられた意見・提言や、同期間中の「わくわくトーク」、「知事・市町村長会議」「パブリックコメント」で出された意見の中から、次の11件を「県民からの優れた意見・提言」として採択した。

これらの意見・提言について、その趣旨を十分に踏まえ、できる限り施策等に反映していただきたい。

戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」

	提言先	項目	意見・提言の内容
1	目安箱	持ち運び型防 暑遮光ハウス	炎天下での農作業用に、徳島県農業大学校が太陽光発電でミスト扇風機を稼働させる持ち運び型防中暑遮光ハウスを開発試作したそうだが、農業用とともに子供たちの野外でのスポーツ用に試作実験できないか。
2	目安箱	照明の100 %LED化	徳島県はLED先進県として全国、いや全世界の模範になるべく、照明のオールLED化を宣言してはどうか。少なくとも役所や公的機関で使用する照明のLED化を実行して、電気の節約ができないか。
3	目安箱	県内の棚田の 愛称を「ライ スガーデン」 に	カンボジアやタイでは、棚田の周辺にカフェや飲食店、ホテルがある。 棚田の愛称を「ライスガーデン」として、美郷や上勝の棚田を世界に発信し、米を中心に徳島の食材が食べられる飲食店が棚田に集えればよいと思う。
4	目安箱	公共交通機関 利用促進のた めに	バスや汽車に自転車を乗せられるようにすれば、出発駅まで自転車で行くことができ、さらに着いた先から好きなところに自転車で行けるので、出勤するのにも汽車が利用しやすくなると思う。
5	目安箱	高齢者移住を 地方創生の柱 に	都会に住んでいる年金生活の高齢者に移り住んでもらうのが、徳島の人口減を食い止める現実的な方策だと思う。年金生活なので、働く場所は必要なく、また、福祉関係で若者の雇用が創出され、さらに、徳島は都会より家賃が安いので、移住者にとってもメリットがあると思う。

	提言先	項目	意見・提言の内容
6	目安箱	NHKジャーナルを聞いて	徳島県神山町のITを活用した取組みは、地方創生に深く寄与するものであり、特に被災地の復興にも有効なものと思うので、この徳島県の取組みを地方再生モデルとして広め、推進していただきたい。
7	目安箱	県民の誇りの回復と観光促進のために	徳島は自動車であることを恥じず、全国にもっとアピールするべきではないか。 眺望の雑木林などの手入れの徹底、最先端のおもてなしの取組み、駅弁、県産野菜などのフレッシュジュース、鳴門金時の焼き芋や、立ち食い徳島ラーメン屋等々観光に向けた取組みを促進して欲しい。
8	目安箱	津波避難所の表示	南海トラフ巨大地震の被害想定を受けて、県内にはたくさん津波避難所ができており、自宅近辺の避難所は把握しているが、通勤途中に地震がきたら、避難場所が分かりにくいいため、主要国道、県道に避難場所の表示があれば、いざというときに迅速に避難できると思う。
9	わくわくトーク	移住者への情報発信	徳島を移住や就農の候補地としたい人達に、眠ってる空き家や耕作放棄地の情報が届くシステムを県一丸でできれば、家や土地や町が蘇るのではないか。
10	知事・市町村長会議	米や地域の特産品の海外戦略等について	昨年の米価は、農業の根幹を揺るがすほどの低迷であった。国の政策では飼料米、加工米への転換ということであるが、徳島の米はおいしいと思うので、飼料米とするのではなく、余った米を海外戦略として主に中国やシンガポールの富裕層へ販売できるように、市町村とともに取り組んでもらいたい。
11	パブリックコメント(アイデア募集型)	小学生にタブレット端末を	全国一の光ファイバー網をアピールし、徳島ならではの特色ある人材を育成するため、小学校で、一人一台のタブレット端末を採用してはどうか。

6 委員名簿

	氏 名	現 職 等	班別
会 長	石田 和之	徳島大学大学院 准教授	1
副会長	阿部 頼孝	徳島文理大学短期大学部 教授	1
委 員	井関 佳穂理	公認会計士	2
〃	植田 美恵子	徳島女性農業経営者ネットワーク顧問	1
〃	坂本 真理子	NPO法人郷の元気 副代表理事	2
〃	佐和 良佳	美馬市社会福祉協議会 事務局長	1
〃	田村 耕一	(公財)徳島経済研究所 専務理事	2
〃	鳴滝 貴美子	和田島漁業協同組合女性部 部長	2
〃	南波 浩史	徳島文理大学 教授	2
〃	橋本 延子	女性林業研究グループ「那賀川こまち」 会長	1
〃	浜口 伸一	(株)ハマグチ 代表取締役	2
〃	福島 明子	四国大学 講師	2
〃	藤原 学	(一社)徳島県労働福祉会館 理事長	1
〃	森本 長生	(株)道の駅日和佐 駅長	1